

今日のトピック トルコの金融政策（2016年1月）

政策金利を据え置き、金融引き締めスタンスを維持

ポイント1 市場予想通り据え置き 金融引き締めスタンスを維持

- トルコ中央銀行（以下、中銀）は19日、市場の大方の予想通り、主要な政策金利である1週間物レポ金利を7.50%に、金利誘導レンジの上限を10.75%に、下限を7.25%に、それぞれ据え置くことを発表しました。
- 中銀は、2014年1月に通貨防衛のため大幅に利上げして以降、利下げを限定的にとどめており、金融政策は引き締めスタンスにあるとしています。

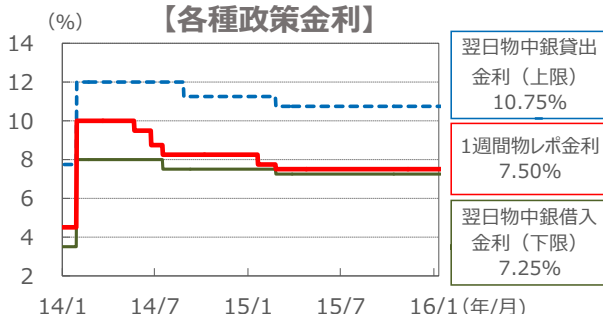
ポイント2 様子見姿勢を継続へ 物価高と景気減速の両方を警戒

- 12月の消費者物価指数は前年同月比+8.81%と、中銀の目標である+5%を大きく上回っています。また、市場では1年後も+8%近くで高止まりが続くと見られています。
- 一方、テロなどによる観光産業への不安もあり、景気は減速傾向と見られます。
- 物価高と景気減速の両方に配慮が必要な状況下、金融政策には手詰まり感が強く、中銀は様子見姿勢を当面続けられるとされます。

今後の展開 リラは上値の重い展開か

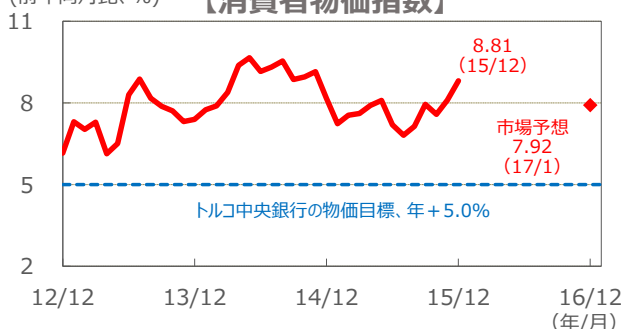
- 足元では、米国の利上げ、隣国シリアを巡る地政学リスクの高まり、中国の景気不透明感などからトルコリラ安が進んでおり、物価が高止まりするリスクは強まっています。
- そうしたなか、中銀は景気を重視する与党公正発展党（AKP）政権への配慮から、利上げをしにくいとの見方があります。景気や中銀の独立性への懸念から、リラは上値の重い展開が当面続きそうです。

【各種政策金利】



(注) データは2014年1月1日～2016年1月19日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【消費者物価指数】



(注) データは2012年12月～2015年12月。市場予想は、トルコ中央銀行が2016年1月14日に発表した調査結果。
(出所) トルコ中央銀行、Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) データは2014年1月1日～2016年1月19日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2016年1月20日 「OPEC」と「シェールオイル」(グローバル) 2016年1月 7日 足元の市場動向

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。